

● 研究所プロジェクト活動・最近の研究活動紹介

Project 1 社会的公正に基づく共生の研究

国際共生研究所 Project 1 シンポジウム

「若者が語る多文化共生：

外国にルーツをもつ子どもの権利を考える」

2010年11月27日 於 本学

報告者 ^{もと}元 百合子

本研究所は2010年11月27日(土)、(財)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)との共催という形で、標記のシンポジウムを本学で開催した。真の共生とは何を意味するのか、日本に共生社会を構築するには何が必要かを様々な角度から考えることを目的とする企画である。日本社会は80年代以降、急速に民族的・文化的に多様化してきたが、国籍や民族的出身による差別は蔓延し、外国籍や外国にルーツを持つ市民・住民の人権状況は、決して良くない上、社会的関心を引くことも少ない。他方、「多文化共生」がともすれば表面的に語られ、一過性のイベントといった形で実践されがちな現状がある。



(財)とよなか国際交流協会の協力の下にパネリストとして招いた4人の若者たち(大学生・大学院生)が、シンポの趣旨を理解して、個人的な経験や家族とともに遭遇した苦難、思い、問題意識や主張を率直に語ってくれた。ベトナム難民二世のグエンティ・ホンハウさん、中国出身の焦春柳(ジャオ・ツウンリョウ)さん、日本とフィリピンのダブルである三木幸美(みきゆきみ)さん、在日コリアン三世の呉賢志(オ・ヒョンジ)さんである。そこで語られた様々な経験や思いをここで要約することは不可能かつ不適切であるが、血統主義の国籍法や出入国管理・難民認定法などの法制度自体の持つ問題点や、その運用における人権侵害、たとえば全件収容主義の非人道性や、家族の一部の退去強制による家族統合の権利の侵害などの実態が浮き彫りになった。グエンティさんは無国籍者として生きることを余儀なくされ、焦さんは両親が退去強制された後、子どもながらに入国管理局で毎月長い「説教」を聞かされるという辛い経験もしてきた。また4人とも、日本社会の排外性、自民族優越主義ともいえる偏見や差別を学校や社会で様々な形で経験しながら、民族的出身を含めた自己のアイデンティティを肯定し、誇りを持つようになり、同様な苦しみに直面する子どもたちを支援したいと考えて活動している。

対等、平等、人権をキーワードに日本社会を共生社会に作りかえる責任は、差別されマイノリティ化された人々

や子どもたちではなく、いわゆるマジョリティ、つまり不均衡な力関係の中で優越的な地位にある者の側にあることを改めて教えられ、考えさせられる有益な機会であった。

平和・人権研究会

第14回 2010年10月15日 報告者 黒澤 満 教授

「2010年核不拡散条約(NPT)再検討会議と核軍縮」

第15回 2010年11月12日 報告者 前田 美子准教授

「学校教育における不正行為：カンボジアを事例として」

第16回 2011年2月7日 報告者 香川 孝三 教授

「労働分野における日本のアジアへの国際協力」

Project 2 高等教育における英語教育の方法研究

Integrated Studies:

A new concept for instruction at OJC

報告者 Deryn P. Verity, Ph.D.

As of April, 2011, the first-year English curriculum at OJC's Tandai will feature a series of new English classes. Instead of studying reading, writing, and discussion in separate modules, first-year students will practice listening, speaking, reading and writing together in one class. This program, called Integrated Studies, meets for a total of 8 hours per week for the entire year, with each student studying English under 4 different teachers over two semesters.

Each class is organized around a conceptual theme. Both commercial textbooks and original, innovative collections of readings, compiled by OJC faculty members, are used. The themes are broad, and open to generous interpretation as the program is piloted for its first year.

During Spring semester, in Integrated Studies 1: Identity (IS1—taught by native speakers of English), students will read, speak, and write about topics such as life goals, past and future achievements, personal and cultural traits, and career aspirations. Integrated Studies 2: Discovery (IS2—taught by native speakers of Japanese) will address a variety of cultural topics, such as language and culture, cultural values, non-verbal communication, health care, safety, and social interaction. In the Fall, both IS classes (IS3: Community and IS4: Equality) will focus on global issues such as social justice, human rights, food and water supply issues, poverty, war and peace, and environmental pollution.

Central to the design of this program is the PROJECT and the PORTFOLIO. Projects are integrated language practice activities, done in collaboration with one or more partners, comprising a 3-part cycle of gathering information, working with the information (analyzing, organizing, interpreting,